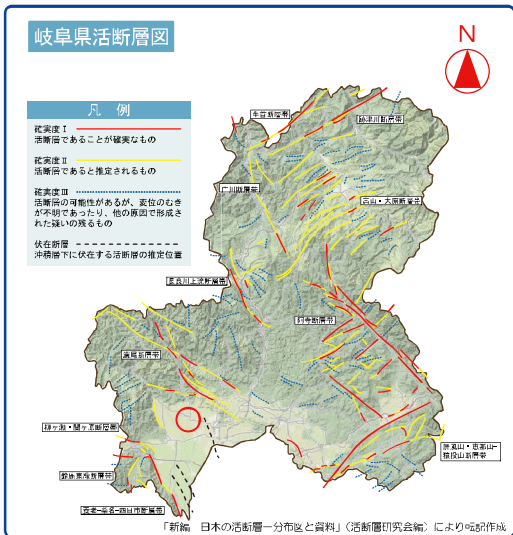
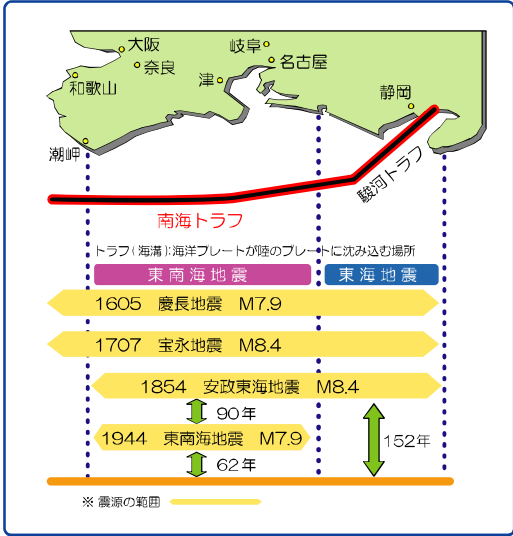


地域の危険度マップ

地域の危険度マップとは？

地域の危険度マップは、地震による揺れによって発生する建物被害の状況を、相対的に表したもので、「揺れやすさマップ」で示した最大の揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表しています。

大きな地震が発生すると建物が倒壊し、家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインの寸断、火災の発生など、大きな被害に発展する恐れがあります。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が必要です。

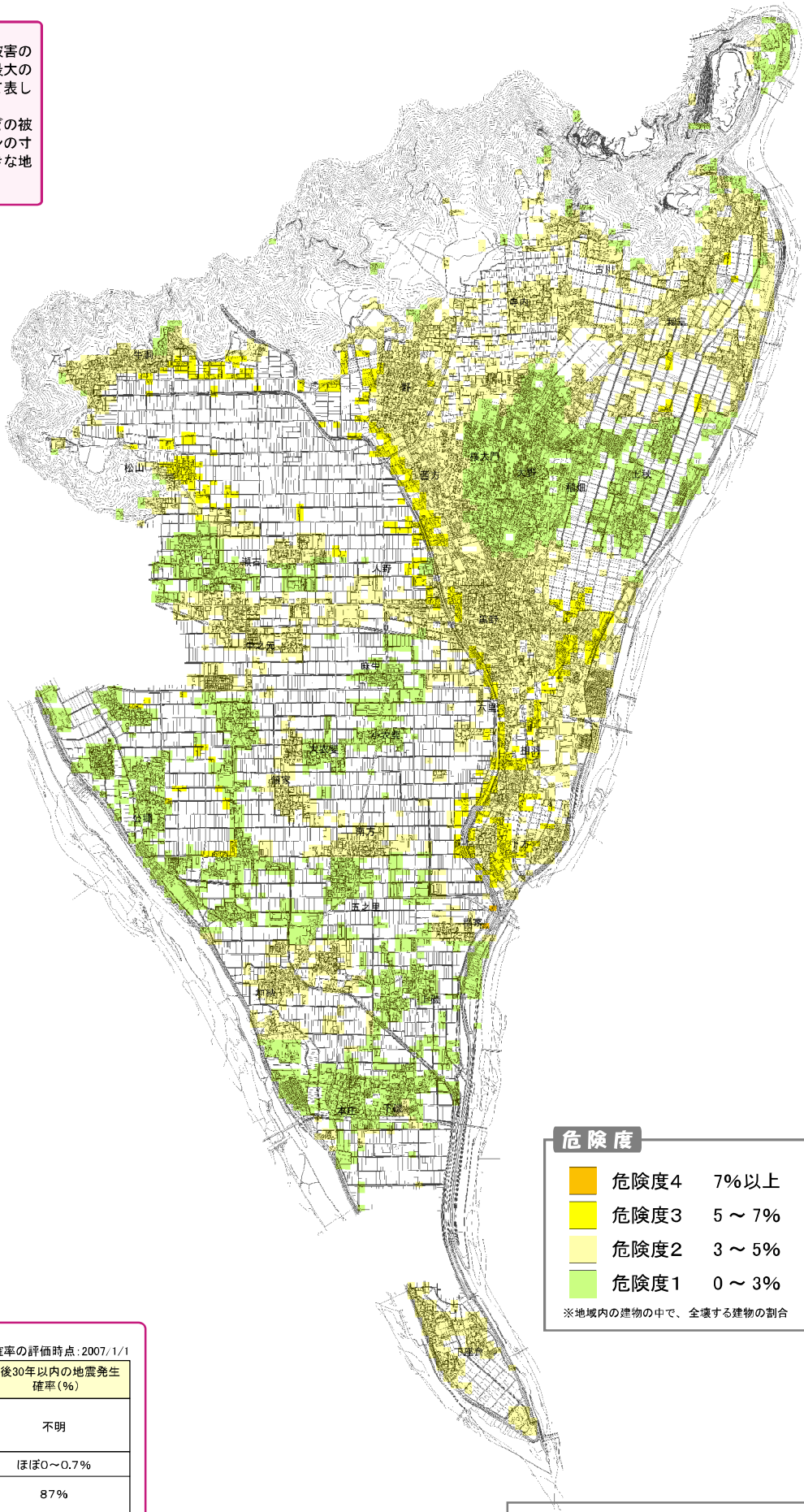


想定地震と位置

●想定地震と震源(※断層や震源の位置は上図を参照) 発生確率の評価時点: 2007/1/1

地震名	マグニチュード	震源の位置	今後30年以内の地震発生確率(%)
活断層型 ◆柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯	7.7程度	丹生山地西方の日本海沿岸～琵琶湖東岸～伊吹山地南縁	不明
養老・桑名・四日市断層帯	7.7程度	養老山地の東縁	ほぼ0～0.7%
海溝型 ◆東海地震	8.0程度	南海トラフ(駿河トラフ)	87%
◆東南海地震	8.1程度	南海トラフ	60～70%
どこでも起こりうる直下型 ◆町内直下型地震	6.9	大野町中央部	-
参考 兵庫県南部地震	7.3	兵庫県淡路島北部	0.02～8% (発生直前の評価)

出典: 国の地震調査研究推進本部, 中央防災会議



危険度

- 危険度4 7%以上
 - 危険度3 5～7%
 - 危険度2 3～5%
 - 危険度1 0～3%
- ※地域内の建物の中で、全壊する建物の割合

